ASHRAEコンペデータを用いた電力予測モデル構築

目次

- ・背景、目的
- ・解析フロー
- ・問題の理解
- ・データ前処理 目的変数の基本情報確認 説明変数の基本情報確認 相関確認(相互、目的変数) 欠損値除去、外れ値除去
- ・モデル選定 LightGBM
- ・学習及び結果確認 ハイパーパラメータ調整:GridSearch validation戦略:交差検証
 - 評価指標:RMSE,R^2
- ・まとめ

背景、目的

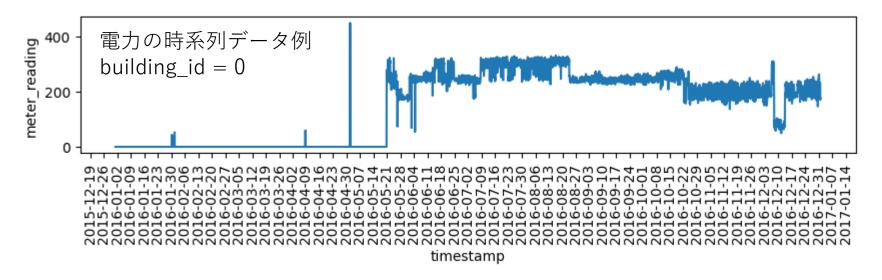
<u> 背景</u>

ASHRAEコンペ: kaggleで2019年に開催された、1448棟のビルの4種類のメーター (電力、冷水、スチーム、温水)の値を天候や位置情報から予測する回帰問題。 https://www.kaggle.com/competitions/ashrae-energy-prediction →データに欠損値やノイズが多く、前処理から丁寧に行う必要がある。

<u>目的</u>

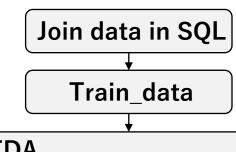
ASHRAEコンペデータを用いて電力予測モデル構築の練習を行う。(下記ルール)

- ・予測するのは電力のみ
- ・trainデータの一部をtestデータとして切り出し、testデータのRMSEが最小かつR^2最大のモデルを目指す



NEXT:今回の解析フロー

解析フロー



EDA

 Check the basic statistics and multicollinearity of the data

Preprocessing

- Limit the range of meters to 0 < 'meter_reading' < 10^4
- · Logarithmically transform the objective variable
- Remove data with a missing rate of 15% or more
- Replace qualitative variables with quantitative variables in label encoding

Feature engineering

· Split 'timestamp' into month, day, hour, day of week

Model(LightGBM、XGBOOST)

- Tuning Hyper-parameter: GridSearch
- · Validation tactics: K-fold

Prediction

• Evaluate performance with RMSE

NEXT:取り組む問題の理解

問題の理解

概要

目的変数 :meter_reading(メーターの電力読み値)

説明変数 :air_temperature (気温),cloud_coverage (雲量)…等

データ期間:016-01-01~2016-12-31

ビルの情報:全1,449件、全16のサイト(都市)に分かれている

予測間隔 :1時間ごと

追加情報 : ビルの補足情報とエリアの気象情報が利用可能

<u>データ</u>

- ・train.csv building__id - ビルID meter - メーター項目の種類 (電気、水道、蒸気、温水) timestamp - 日付 meter_reading - メーターの値
- ・weather_[train/test].csv site_id - エリアID air_temperature - 気温 cloud_coverage - 雲量 dew_temperature - 露点温度 precip_depth_1_hr - 降水量 sea_level_pressure - 大気圧 wind_direction - 風向 wind speed - 風速
- ・building_meta.csv site_id - エリアID building_id - ビルID primary_use - ビルの使用目的 square_feet - 床面積 year_built - 築年数 floor_count - 階数

考察

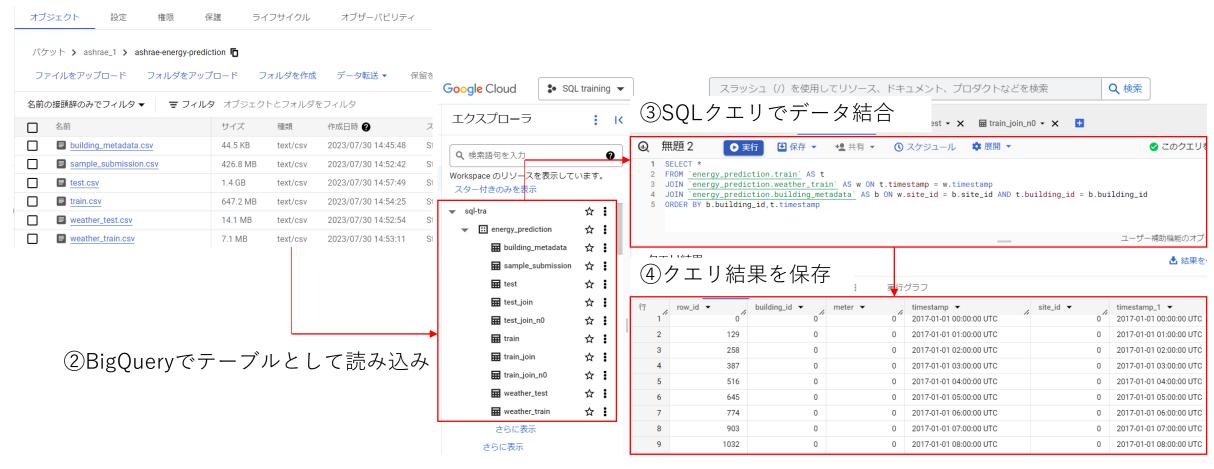
- ・ビルの電力用途仮説
 - →照明、空調、PC等…日中、平日、暑い日、寒い日等に電力使用量が増大する
- ・目的変数との相関仮説
 - →気温・露点温度(~湿度):空調の電力量、雲量・降水量:照明の電力量に相関がある
- ・解析環境の選定
 - →python:今回は重回帰、アンサンブル回帰などの多変量回帰モデルが想定される。使い慣れたpythonを選定
 - →GCP BigQuery:データ量が多く(2GB程度)ファイルが分割されているため、SQLでの結合処理が望ましい
 - →jupyter notebook on Vertex Al Workbench: BigQueryと連携できるpython環境、ライブラリも充実している

NEXT:BigQueryによるデータ整理

データ整理

<u>データの流れ</u>

①KaggleからCloudStrageにデータアップロード



⑤以降はVertex Al Workbench上のjupyter notebook で解析

NEXT:目的変数の基本情報を確認

データ前処理:目的変数の基本情報確認

チェックの目的

目的変数(meter_reading)がモデル構築に値するデータであることを下記項目で事前チェック

①基本統計量

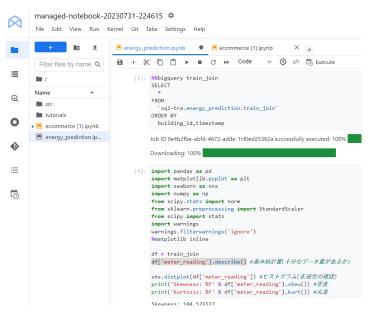
ポイント:モデル構築に十分なサンプル数があるか、平均・分散などの統計量が異常ではないか

②正規性

ポイント:歪度、尖度、外れ値の存在等を確認、外れ値の除去や線形回帰の条件検討として

結果

jupyter notebook on Vertex Al Workbenchで解析



※ソースは資料末尾のgithub参照

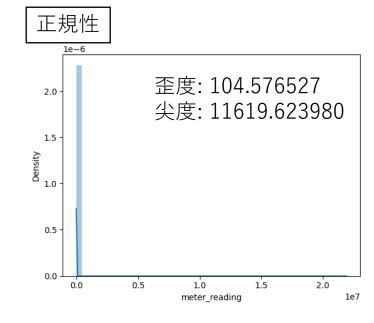
NEXT:外れ値の除去&対数変換

基本統計量

2.012560e+07 count 2.124813e+03mean 1.535796e+05 std 0.0000000e+00min 25% 1.830000e+01 7.875000e+01 50% 75% 2.678430e+02 2.190470e+07 max

Name: meter reading

dtype: float64



- ・サンプル数7000万データ⇒如何なるモデルでも十分な水準
- ・最大値10^7と平均値10^3に4桁の差⇒電力使用量の差としては考えにくい
- ・尖度、歪度⇒正規分布から大きく乖離して尖っている、0付近にデータが多い ⇒10^7と0近傍の外れ値を除去して予測モデルを作成する必要がある

データ前処理:目的変数の基本情報確認

<u>チェックの目的</u>

目的変数(meter_reading)がモデル構築に値するデータであることを下記項目で事前チェック

①基本統計量

ポイント:モデル構築に十分なサンプル数があるか、平均・分散などの統計量が異常ではないか

②正規性

ポイント:歪度、尖度、外れ値の存在等を確認、外れ値の除去や線形回帰の条件検討として

<u>結果</u> meter_readingの値を0以上10000以下に設定⇒再度基本統計量と正規性を確認

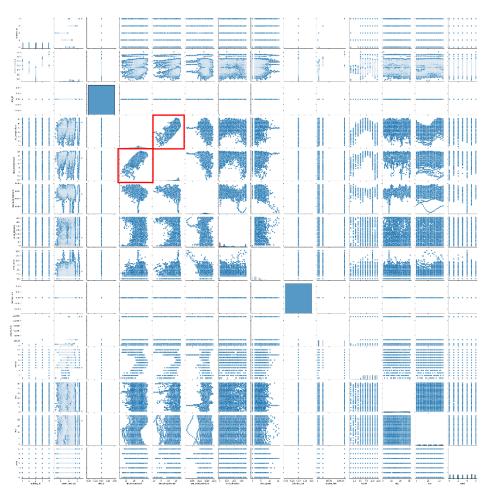
基本統計量 正規性 1.148767e+07 count 0.6 歪度: 5.284028 歪度: -0.212133 1.778589e+02mean 0.004 尖度: 36.158396 尖度: -0.083280 3.737603e+02std 0.5 4.000000e-04 min 0.003 Density .o 25% 2.335000e+01 50% 6.856670e+01 対数変換 75% 1.780000e+02 0.2 9.966900e+030.001 max 0.1 Name: meter reading 0.000 dtype: float64 2000 4000 6000 8000 10000 meter reading m log ・正規分布に近づいたが依然として0近傍に偏りあり⇒対数変換 正規分布に近づいた

NEXT:説明変数の基本情報を確認

データ前処理:説明変数の基本情報確認

<u>チェックの目的</u>

説明変数間の多重共線性を除去するため、多変量連関図により変数同士の相関及びデータの分布を確認 ※質的変数を数値にエンコード、今回はラベルエンコーディングを採用



- ・データ量が多いためbuilding_id < 10をサンプリング
- ・air_temperature(気温)とdew_temperature(露点温度)に相関が見られる
 →同じ温度指標のため。今回はどちらもそのまま使用

NEXT:欠損値、外れ値の除去

データ前処理:欠損値、外れ値の除去

欠損値、外れ値の除去

下記手順で実施

- ①目的変数(meter reading、メーターの電力読み値)の欠損値及び外れ値を除去(実施済)
 - →待機電力を考慮すると0及び負の値は除去すべき外れ値であると言える
 - →また単変量解析により明らかに桁の大きいデータも削除する
- ②説明変数の内、一定の欠損値割合を持つデータを除去 →今回は15%以上の欠損データは削除
- ③残った欠損値は0で置換
- ④更に目的変数との二変量解析(可視化)により目視で外れ値を除去

variable	Total(欠損値の数)	Percent(欠損値割合)
floor_count	8580691	0.746948
year_built	6322085	0.550337
cloud_coverage	5041037	0.438822
precip_depth_1_hr	2437674	0.212199
sea_level_pressure	958198	0.083411
wind_direction	609513	0.053058
wind_speed	22521	0.001960
dew_temperature	5077	0.000442
air_temperature	3368	0.000293
hour	0	0.000000
day	0	0.000000
month	0	0.000000
building_id	0	0.000000
square_feet	0	0.000000
primary_use	0	0.000000
meter_reading	0	0.000000
site_id	0	0.000000
week	0	0.000000

NEXT:モデル選定

モデル選定

多変量の回帰に対応したモデル選定

- →下表の手法からメリデメを考慮して選択
- →今回の説明変数には質的変数ある
- →一般的にエンコーディングの手間が少なく済むアンサンブル学習系を採用:**LightGBM**

手法	メリット	デメリット
線形回帰系	・ロジックが単純で実装が楽 ・説明変数の寄与率がわかる ・動作が高速	・非線形な挙動には対応できない ・残差の正規性が要求される ・基本的には量的変数のみ可
アンサンブル学習系	・非線形を表現できる ・質的/量的変数を同時処理可 ・説明変数の寄与率がわかる ・大規模でも比較的高速なものがある	・データが少ないと過学習しやすい
NN系	・非線形含めた優れた表現力 ・画像データの入力も可	・データが少ないと過学習しやすい ・説明変数の寄与度が不明 ・学習に時間がかかる ・基本的には量的変数のみ可

NEXT:ハイパーパラメータの調整結果と学習結果の確認

学習及び結果確認

学習条件

ハイパーパラメータ調整:GridSearch

Validation戦略:交差検証法 CV=5

評価指標:RMSE,R^2

<u>結果</u>

・最適パラメータ

'colsample_bytree': 0.4, 'min_child_samples': 0,

'num_leaves': 3, 'reg_alpha': 0.0001, 'reg_lambda': 0.1,

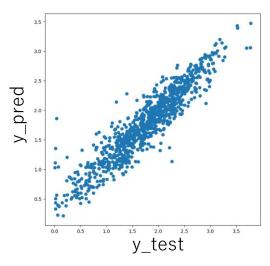
'subsample': 0.4, 'subsample_freq': 7

・評価指標

	学習	テスト
RMSE	0.26	0.26
R^2	0.85	0.85

学習、テスト共に値に評価指標に差なし →過学習していない

・予測と実値の比較



R^2 = 0.85なので、 本データセットに対しては 予測精度の高いモデルを構築できた

params = $\{\text{reg_alpha'}: [0.0001, 0.003, 0.1],$

'num_leaves': [2, 3, 4, 6],

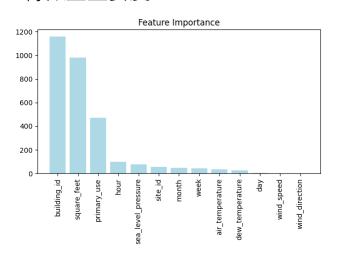
'subsample': [0.4, 1.0], 'subsample_freg': [0, 7],

'reg_lambda': [0.0001, 0.1],

'colsample_bytree': [0.4, 0.7, 1.0],

'min_child_samples': [0, 2, 5, 10]

· 特徵量重要度



building_id、square_feetといった 個々のビルの特性や位置情報が 電力使用量にとって重要度が高い

まとめ

- ・KaggleのASHRAEコンペデータを使って電力予測モデル構築の練習を行った
- ・目的変数、説明変数共に欠損値や異常値が多く、データの前処理を丁寧に実施する必要があった
- ・LightGBMにより比較的高い精度で予測モデルを構築することができた
- ・特徴量重要度により、ビル毎の特性や位置情報が、電力消費量にとって重要であることがわかった
- ・更なるモデル精度向上に向けて下記改善点が挙げられる 前処理

欠損値や異常値を線形補完により穴埋め ラベルエンコード→ターゲットエンコードに変更

特徴量エンジニアリング

気温、露点温度、風速などから不快指数などの特徴量を作成

モデル改良

ハイパーパラメータの調整としてoptuna等のベイズ最適化の方法を用いる NNや他のアンサンブル手法を複数組み合わせ site id等のデータブロック毎に学習範囲やモデルを組み合わせる

参考資料

· ASHRAE - Great Energy Predictor III

https://www.kaggle.com/competitions/ashrae-energy-prediction/data

- ・「データ前処理」- Kaggle人気チュートリアル<u>https://qiita.com/hkthirano/items/12e046b3e02961d8460d</u>
- ・Kaggleのエネルギー使用量予測コンペ(ASHRAEコンペ)に参加しました

https://www.deep-percept.co.jp/blog/category02/202006051085/

・Kaggleコンペ、ASHRAE - Great Energy Predictor IIIの概要

https://book.st-hakky.com/docs/ashrae-overview/

1st Place Solution Team Isamu & Matt

https://www.kaggle.com/c/ashrae-energy-prediction/discussion/124709

・ XGBoostとLightGBMの違い

https://tech.datafluct.com/entry/20220223/1645542001

· LightGBMのearly stoppingの仕様が変わったので、使用法を調べてみた

https://qiita.com/c60evaporator/items/2b7a2820d575e212bcf4#%E5%8F%82%E8%80%83-%E7%AC%AC3%E3%81%AEearly_stopping%E6%8C%87%E5%AE%9A%E6%96%B9%E6%B3%95

· Vertex Al workbenchとGitHubを連携させ、ファイルのクローンを作る方法

https://blog.since2020.jp/ai/vertex-ai workbench github/

・ Cloud Console を使用してユーザー管理ノートブック インスタンスを作成する

https://cloud.google.com/vertex-ai/docs/workbench/user-managed/create-user-managed-notebooks-instance-console-quickstart?hl=ja